

# 大学生の書写する漢字の字体に関する考察

近 藤 政 美

## A Study on Kanji's Forms Written by University Students

Masami Kondo

### 一 は じ め に

漢字は難しい、というのが1940年代（昭和20年ごろ）に教育を受けた者の実感であった。しかし、近年は漢字に興味を持つ学生が増加し、やさしくおもしろいと言う者も多くなった。その要因としては情報処理機器の発達と教育研究の進展が挙げられよう。ところが私は50年前と別の意味で、漢字は難しいと強く感じるようになった。その主な点は「当用漢字表」<sup>1)</sup>などの制限漢字の字体の改変と学校教育での「教科書体」<sup>2)</sup>による規範の強化である。結果として、それらは制限外の漢字および一般社会で通用する漢字の字体との間に乖離を増幅させることになった。

〔表Ⅰ〕 漢字の字体の対照表（教科書体・旧教科書体・明朝体・楷書体）

	A 教科書体（平成12年～14年の小・中学校の国語教科書）	B 旧教科書体（昭和16年～18年国民学校初等科国語教科書）	C JIS明朝体（WORD98，マイクロソフト）	D JIS楷書体（WORD98，マイクロソフト）
a	○ 4 画 天	天 △	○ 天	天 △
b	○ 6 画 考	考 △	○ 考	考 △
c	○ 13 画 福	福 × 14 画	○ 福	○ 福
d	○ 14 画 驅 （常用漢字）	驅 × 21 画	○ 驅	○ 驅
e	○ 22 画 鷗 （表外漢字・明朝体）	○ 鷗	鷗 △ 15 画	鷗 △ 15 画

備考 印は現在の学校教科書で正用， 印は許容，×印は誤用とされる。

現行の「常用漢字表」(1981<sup>(3)</sup>)では〔表 〕のAc(福)のしめすへんとAd(駆)の区が改変されている。旧字体(Bの旧教科書体など)ではそれぞれ「福」「驅」となっていたが、「当用漢字表」にしたがってこの表の中の大部分の漢字に適用されたのに準じたものである。ただし単独で漢字として用いる場合、「示」はそのまま、「區」は「区」と改められた。

表外漢字(「常用漢字表」に掲載されていない漢字)の字体は、文部省(現、文部科学省)では旧字体のままで用いることを原則にしてきた。ところが近年になってパソコンなどの情報処理機器が国民の間で普及し、使用される表外漢字の数も急激に増加した。そして、これらの機器では「JIS漢字」<sup>(4)</sup>と称し、大勢としては偏・旁なども「常用漢字表」に準じて改変した字体を使用している。この問題に関して、国語審議会では十分定着していると考えられる22字を「簡易慣用字体」<sup>(5)</sup>と称し、標準字体と併用してもよいという答申を提出した。Ae(鷗)はAd(駆)などに準じてCe(鷗)を用いてもかまわないというのである。が、他の表外漢字1022字については伝統的な字体を基本とする「印刷標準字体」<sup>(6)</sup>を示した。たとえば、「諫」(カン)、「鑄」(セイ)はJIS漢字では「諫」「鑄」である。しかし、一般社会におけるJIS漢字の使用拡大の流れをこれによって食い止めることはできないであろう。

現代の日本における、このように複雑な漢字を大学生はどう認識して書写しているか、本稿はこの問題を解明するために調査・分析の上、考察したものである。なお、調査の対象にした大学生はすべて18歳から22歳までで、小学校・中学校で「当用漢字字体表」「教科書体」を規範にした漢字教育を受けてきた。が、その後パソコンなどの情報処理機器を日常生活において使用し、JIS漢字の影響も強く受けている。

## 二 調査資料と分析の方法

現代の日本で主として使用されている漢字は、次の3種である。ただし、これらは体系の異なる分類による呼称である。

(イ) 常用漢字(1945字、教育漢字1006字を含む)

(ロ) 人名用漢字(285字<sup>(7)</sup>)

(ハ) JIS漢字

上記の(イ)のうちの教育漢字の中から100字を次の視点から抽出して、筆写の楷書体での実態を調査した。

〔表Ⅱ〕 調査漢字100字の教科書体活字

整理番号	考察視点	明朝体活字	教科書体活字				
1	—	便	便	8	—	私	私
2	—	妹	妹	9	—	純	純
3	—	技	技	10	—	腸	腸
4	—	板	板	11	—	識	識
5	—	測	測	12	—	輪	輪
6	—	物	物	13	—	判	判
7	—	福	福	14	—	券	券

15	一	勝	勝	53	三	復	復
16	一	殺	殺	54	三	境	境
17	一	所	所	55	三	矢	矢
18	一	営	営	56	三	輸	輸
19	一	電	電	57	三	拾	拾
20	一	遠	遠	58	三	郡	郡
21	二	刊	刊	59	三	率	率
22	二	港	港	60	三	敵	敵
23	二	落	落	61	四	願	願
24	二	児	児	62	四	望	望
25	二	展	展	63	四	園	園
26	二	岸	岸	64	四	改	改
27	二	堂	堂	65	四	経	経
28	二	助	助	66	四	疑	疑
29	二	鼻	鼻	67	四	均	均
30	二	球	球	68	四	系	系
31	二	鉄	鉄	69	四	混	混
32	二	財	財	70	四	雑	雑
33	二	製	製	71	四	蚕	蚕
34	二	臓	臓	72	四	条	条
35	二	録	録	73	四	西	西
36	三	申	申	74	四	北	北
37	三	午	午	75	四	老	老
38	三	倉	倉	76	四	少	少
39	三	険	険	77	四	脈	脈
40	三	形	形	78	四	天	天
41	三	住	住	79	四	育	育
42	三	鉦	鉦	80	四	茶	茶
43	三	招	招	81	四	奏	奏
44	三	講	講	82	四	投	投
45	三	義	義	83	四	卷	卷
46	三	悲	悲	84	四	株	株
47	三	低	低	85	四	令	令
48	三	績	績	86	四	切	切
49	三	孝	孝	87	四	考	考
50	三	相	相	88	四	風	風
51	三	転	転	89	四	菜	菜
52	三	往	往	90	四	選	選

91	四	態	態	96	四	清	清
92	四	危	危	97	四	術	術
93	四	幸	幸	98	四	未	未
94	四	地	地	99	四	因	因
95	四	柱	柱	100	四	似	似
				整理 番号	考察 視点	明朝体 活字	教科書 体活字

上記の表中の考察視点は、予め次の4種に分類した。

- 〔一〕部首 20字
- 〔二〕間違いやすい字 15字
- 〔三〕間違いやすい字（形や音の似ている字が存する） 25字
- 〔四〕教科書体活字と別の字形が存する字 40字

被調査者は100名、すべて平成13年度中に岐阜聖徳学園大学に在学した者である。

また調査に際して漢字を楷書体で筆写するよう指示した。そして採点には、次の4段階を考え、分析してみた。

- i 正答（教科書体と同じ字形で正しく書写している）
- ii 許容（楷書体として許容できる範囲で書写している）
- iii ×誤答（楷書体として許容できる範囲で書写されていない）
- iv 無答（漢字で書記されていない）

なお ii と iii に関しては、「常用漢字表」の（付）「字体についての解説」を参考にして、各漢字ごとに基準を定めて判断した。

# 参 考

漢字の字体の明朝体活字と筆写の楷書との関係を「常用漢字表」の解説では「印刷上と手書き上のそれぞれの習慣の相違に基づく表現の差と見るべきもの」とした。が、本稿では教科書体と同じ字形を規範（正答）とし、これと相違するものは許容とした。

〔表Ⅲ〕 漢字の明朝体と筆写楷書体との対照表（明朝体・筆写楷書体）

	(イ) 明朝体	(ロ) 筆写楷書体	(ハ) 教科書体 (小学校の国語教科書)	常用漢字表の(付)解説の細目
a	戸	○戸 △戸	戸	(1)長短の相違に関する例
b	風	○風 △風	風	(2)方向の相違に関する例
c	経	○経 △経	経	(3)書き順の相違に関する例
d	月	○月 △月	月	(3)つけるか,はなすかの相違に関する例
e	令	○令 △令	令	(6)その他の相違に関する例

備考 印は正答, 印は許容とする。

### 三 正答率（偏差値）の高位字・低位字に関して

前節で提示した漢字100字を筆写楷書体で書写する。この問題を大学生100人を対象にして調査し、集計した。

調査漢字について教科書体を基準にして採点すると、各々の正答率（＝正答者数）・偏差値は次のようになる。ただし、考察視点別に分類して、高い順に配列した。

〔表Ⅳ〕 調査漢字の正答率

iii 整理 番号	i 考察 視点	明朝体 漢字	教科書 体漢字	ii 正答率 (%)	偏差値
5	一	測	測	98	64.12
7	一	福	福	96	62.77
13	一	判	判	96	62.77
18	一	営	営	96	62.77
1	一	便	便	92	60.07
19	一	電	電	90	58.73
6	一	物	物	89	58.05
17	一	所	所	89	58.05
11	一	識	識	88	57.38
15	一	勝	勝	88	57.38
3	一	技	技	87	56.71
4	一	板	板	87	56.71
12	一	輪	輪	85	55.36
10	一	腸	腸	81	52.67
16	一	殺	殺	80	51.99
8	一	私	私	79	51.32
2	一	妹	妹	77	49.97
9	一	純	純	69	44.59
14	一	券	券	60	38.52
20	一	遠	遠	38	23.71
26	二	岸	岸	98	64.12
21	二	刊	刊	95	62.10
25	二	展	展	92	60.07
31	二	鉄	鉄	90	58.73
28	二	助	助	89	58.05
22	二	港	港	88	57.38
35	二	録	録	88	57.38
29	二	鼻	鼻	87	56.71
23	二	落	落	84	54.69
33	二	製	製	83	54.01
30	二	球	球	82	53.34
34	二	臓	臓	81	52.67
27	二	堂	堂	75	48.63
24	二	児	児	71	45.93
32	二	財	財	71	45.93
37	三	午	午	94	61.42
51	三	転	転	93	60.75
46	三	悲	悲	91	59.40
54	三	境	境	91	59.40
39	三	険	険	89	58.05

58	三	郡	郡	89	58.05
53	三	復	復	88	57.38
47	三	低	低	87	56.71
49	三	孝	孝	85	55.36
55	三	矢	矢	83	54.01
36	三	申	申	82	53.34
44	三	講	講	82	53.34
57	三	拾	拾	81	52.67
50	三	相	相	78	50.65
56	三	輪	輪	74	47.95
59	三	率	率	74	47.95
40	三	形	形	70	45.26
38	三	倉	倉	69	44.59
41	三	住	住	68	43.91
60	三	敵	敵	67	43.24
43	三	招	招	66	42.56
48	三	績	績	63	40.54
42	三	鉦	鉦	62	39.87
45	三	義	義	58	37.18
52	三	往	往	58	37.18
74	四	北	北	98	64.12
76	四	少	少	94	61.42
83	四	巻	巻	91	59.40
75	四	老	老	90	58.73
88	四	風	風	90	58.73
96	四	清	清	89	58.05
67	四	均	均	88	57.38
98	四	未	未	87	56.71
65	四	経	経	85	55.36
99	四	因	因	85	55.36
61	四	願	願	83	54.01
72	四	条	条	82	53.34
84	四	株	株	81	52.67
89	四	菜	菜	80	51.99
70	四	雑	雑	78	50.65
94	四	地	地	78	50.65
73	四	西	西	76	49.30
78	四	天	天	76	49.30
79	四	育	育	76	49.30
77	四	脈	脈	75	48.63

92	四	危	危	74	47.95
95	四	柱	柱	72	46.61
62	四	望	望	71	45.93
68	四	系	系	66	42.56
87	四	考	考	66	42.56
90	四	選	選	63	40.54
82	四	投	投	62	39.87
97	四	術	術	61	39.20
93	四	幸	幸	60	38.52
91	四	態	態	59	37.85
85	四	令	令	58	37.18

86	四	切	切	56	35.83
63	四	園	園	55	35.16
66	四	疑	疑	53	33.81
80	四	茶	茶	53	33.81
69	四	混	混	52	32.14
100	四	似	似	48	30.44
71	四	蚕	蚕	44	27.75
81	四	奏	奏	38	23.71
64	四	改	改	30	18.32
合計				7704	5000.00
平均				77.04	50.00
整理 番号	考察 視点	明朝体 漢字	教科書 体漢字	正答率 (%)	偏差値

備考 表の右の欄外の 印は高位字， 印は低位字を示す。

全漢字の平均の正答者数は77.04人(77.04%)である。正答者数の高位字(偏差値60.00以上)，低位字(偏差値40.00未満)を高い順に配列すると，次のようになる。

〔表Ⅴ〕 調査漢字の正答率の高位字・低位字

ii					i				
整理 番号	考察 視点	明朝体 漢字	教科書 体漢字	正答率 (%)	整理 番号	考察 視点	明朝体 漢字	教科書 体漢字	正答率 (%)
5	一	測	測	98	14	一	券	券	60
26	二	岸	岸	98	93	四	幸	幸	60
74	四	北	北	98	91	四	態	態	59
7	一	福	福	96	45	三	義	義	58
13	一	判	判	96	52	三	往	往	58
18	一	営	営	96	85	四	令	令	58
21	二	刊	刊	95	86	四	切	切	56
37	三	午	午	94	63	四	園	園	55
76	四	少	少	94	66	四	疑	疑	53
51	三	転	転	93	80	四	茶	茶	53
1	一	便	便	92	69	四	混	混	52
25	二	展	展	92	100	四	似	似	48
					71	四	蚕	蚕	44
42	三	鉦	鉦	62	20	一	遠	遠	38
82	四	投	投	62	81	四	奏	奏	38
97	四	術	術	61	64	四	改	改	30
整理 番号	考察 視点	明朝体 漢字	教科書 体漢字	正答率 (%)	整理 番号	考察 視点	明朝体 漢字	教科書 体漢字	正答率 (%)

高位字は「測」など12字，正答率がきわめて高く92%以上である。

また，低位字は「改」など19字，教育漢字ということを考慮すれば，正答率が低い字も目立つ。その理由を〔表Ⅵ〕の(A)～(E)に分類して考えると，次のようになる。

〔表Ⅵ〕 正答率の高位字・低位字の理由

	(A) 構造が単純 ・複雑	(B) 明朝体との 字形の相違	(C) 類似の部首を有 する文字の存在	(D) 旧字体との相違	(E) その他
高位字	測, 岸, 判, 刊, 午, 少, 便,	北,		福(福), 営(營), 転(轉),	展,
低位字	遠, 義, 園, 疑, 混, 術, 態, 幸,	改, 切, 令, 奏,	茶(条), 券(勝), 似(昆), 住(住),	鉦(鑛),	蚕, 投,

高位字の場合は, 広い意味で多用されている。が, (B)の字形が明朝体と相違する「北」, (D)の旧字体と相違する「営」なども含まれている。

低位字の場合は, 多用されていて(A)(B)(C)の理由による漢字が含まれ, 多用されない(D)の「鉦」や(E)のJIS漢字の楷書体と微妙な相違のある「蚕」「投」が含まれるなど一元的ではない。ただ(D)の旧字体との相違が誤答の大きな原因になっていないのは注目すべきことである。

全体を表によって考察視点別に見た場合, 高位字は一類に多く, 低位字は四類に多い。が, 予想していたほど整然とした配置にはなっていない。

#### 四 許容率の高位字・低位字に関して

前節と同じ調査で, 小学校で学んだ教科書体を基準にした。そして許容率を考察視点ごとに, 高い順に配列すると次のようになる。

〔表Ⅶ〕 調査漢字の筆写楷書体の許容率(考察視点別, 高位順)

iii	i	ii			
整理 番号	考察 視点	明朝体 漢字	教科書 体漢字	許容率 (%)	偏差値
20	一	遠	遠	42	74.36
16	一	殺	殺	17	54.07
9	一	純	純	14	51.64
8	一	私	私	13	50.83
2	一	妹	妹	10	48.39
4	一	板	板	8	46.77
10	一	腸	腸	7	45.96
11	一	識	識	7	45.96
6	一	物	物	5	44.34
1	一	便	便	4	43.52
17	一	所	所	4	43.52
12	一	輪	輪	3	42.71
3	一	技	技	2	41.90
15	一	勝	勝	2	41.90
19	一	電	電	2	41.90
7	一	福	福	1	41.09
13	一	判	判	1	41.09
14	一	券	券	1	41.09
5	一	測	測	0	40.28
18	一	営	営	0	40.28
30	二	球	球	11	49.20
23	二	落	落	7	45.96
24	二	児	児	7	45.96
31	二	鉄	鉄	7	45.96
32	二	財	財	6	45.15
33	二	製	製	6	45.15
35	二	録	録	6	45.15
28	二	助	助	4	43.52
29	二	鼻	鼻	4	43.52
34	二	臍	臍	4	43.52
22	二	港	港	3	42.71
21	二	刊	刊	2	41.90
25	二	展	展	2	41.90
27	二	堂	堂	2	41.90
26	二	岸	岸	1	41.09
52	三	往	往	32	66.24
41	三	住	住	28	63.00
40	三	形	形	23	58.94
36	三	申	申	18	54.88
44	三	講	講	14	51.64
48	三	績	績	12	50.02
50	三	相	相	10	48.39
38	三	倉	倉	9	47.58
43	三	招	招	9	47.58
55	三	矢	矢	7	45.96
59	三	率	率	7	45.96



42	三	鉦	鉦	6	45.15
54	三	境	境	6	45.15
56	三	輸	輸	6	45.15
60	三	敵	敵	6	45.15
37	三	午	午	5	44.34
57	三	拾	拾	5	44.34
45	三	義	義	4	43.52
51	三	転	転	3	42.71
58	三	郡	郡	3	42.71
46	三	悲	悲	2	41.90
47	三	低	低	2	41.90
49	三	孝	孝	2	41.90
53	三	復	復	1	41.09
39	三	険	険	0	40.28
64	四	改	改	66	93.83
69	四	混	混	46	77.60
100	四	似	似	43	75.17
86	四	切	切	40	72.74
66	四	疑	疑	38	71.11
81	四	奏	奏	34	67.87
80	四	茶	茶	29	63.81
85	四	令	令	29	63.81
97	四	術	術	29	63.81
68	四	系	系	27	62.19
82	四	投	投	27	62.19
87	四	考	考	26	61.38
90	四	選	選	26	61.38
93	四	幸	幸	26	61.38
71	四	蚕	蚕	23	58.94

95	四	柱	柱	23	58.94
63	四	園	園	22	58.13
70	四	雑	雑	21	57.32
91	四	態	態	18	54.88
73	四	西	西	14	51.64
78	四	天	天	14	51.64
62	四	望	望	13	50.83
65	四	経	経	13	50.83
79	四	育	育	13	50.83
89	四	菜	菜	12	50.02
61	四	願	願	11	49.20
72	四	条	条	11	49.20
84	四	株	株	9	47.58
98	四	未	未	9	47.58
77	四	脈	脈	8	46.77
94	四	地	地	7	45.96
99	四	因	因	7	45.96
67	四	均	均	6	45.15
96	四	清	清	6	45.15
88	四	風	風	5	44.34
76	四	少	少	4	43.52
83	四	巻	巻	3	42.71
92	四	危	危	3	42.71
74	四	北	北	1	41.09
75	四	老	老	1	41.09
合計				1198	5000.00
平均				11.98	50.00
整理 番号	考察 視点	明朝体 漢字	教科書 体漢字	許容率 (%)	偏差値

全漢字に対する許容率の平均は、11.98%である。

〔表Ⅷ〕 調査漢字の許容率（高位字・低位字）

整理 番号	考察 視点	明朝体 漢字	教科書 体漢字	許容率 (%)
64	四	改	改	66
69	四	混	混	46
100	四	似	似	43
20	一	遠	遠	42
86	四	切	切	40
66	四	疑	疑	38
81	四	奏	奏	34
52	三	往	往	32
80	四	茶	茶	29
85	四	令	令	29
97	四	術	術	29
41	三	住	住	28
68	四	系	系	27
82	四	投	投	27
87	四	考	考	26
90	四	選	選	26

93	四	幸	幸	26
3	一	技	技	2
15	一	勝	勝	2
19	一	電	電	2
21	二	刊	刊	2
25	二	展	展	2
27	二	堂	堂	2
46	三	悲	悲	2
47	三	低	低	2
49	三	孝	孝	2
7	一	福	福	1
13	一	判	判	1
14	一	券	券	1
26	二	岸	岸	1
53	三	復	復	1

74	四	北	北	1
75	四	老	老	1
5	一	測	測	0

18	一	営	営	0
39	三	陰	陰	0
整理 番号	考察 視点	明朝体 漢字	教科書 体漢字	許容率 (%)

高位字（偏差値60.00以上）は17字である。そのうち特に高位の字（偏差値72.00以上，印）は次の5字である。

（64）改，（69）混，（100）似，（20）遠，（86）切

これらの許容率が高位となった原因は表（正答率の高位字・低位字の理由）の低位字の部分と対照することによって発見できる。即ち，（A）の文字の構造が複雑である（印）《遠・混など》，（B）の明朝体との字形の微妙な相違《改・切など》，（C）類似の部首を有する文字の存在《似・券など》である。

これらの許容率が高位になった原因を，特に高位の5字についてさらに分析してみると，次のようになる。

〔表Ⅸ〕 許容率の高位字の原因

番号・ 教科書体 (明朝体)	(A) 印は構造が複雑	(B) 明朝体との微妙な差	(C) 類似の部首を有する文字の存在	(D) 参考文字(明朝体)
64 改 (改)		* 部首 己 の第3画とめる(はねる)	* 選, 港の部首の己の第3画はねる(はねる)	(己, はねる)
69 混 (混)		* 第9画 レ は1画(2画のように見える)	* 以の第1・2画 丷 は2画(2画)	(比・衣の部首 丷 は共に1画)
100 似 (似)		* 第3・4画の 丷 は2画(2画)	* 展の第8画 レ 1画(1画)	(衣の第4画 丷 は1画)
20 遠 (遠)		* 第10画 ㄣ はとめる(とめる)	* 園の第12画 ㄣ ははらう 常用漢字表でははらう。JIS 漢字や国語辞典の多くはとめる)	(猿の第13画 ㄣ は, はらう)
86 切 (切)		* 第2画はとめる(はねる)	* 砌の第7画はねる(はねる)	(七の第2画は, はねる)

備考 1 ( )内は明朝体についての説明を示す。

2 \* 印は各々の原因に該当することを示す。

〔表Ⅸ〕の「改」を例にあげると，左の「己」の第3画を教科書体ではとめるが明朝体でははねる。類似の部首を有する「選」「港」は「己」の第3画をはねる。このように，許容率の高位字は上記の(A)(B)(C)(D)のいくつかの項目が複合的に現れる場合に生じることが多い。換言すれば，筆写楷書体の字形が明確に他と区別して記憶されず，教科書体からずれて，しかし許容の範囲内で記されたのである。

低位字（偏差値42.00以下）は19字である。これらは教科書体と社会一般での筆写楷書体との間に差がないので，一度覚えたら正確に記憶しやすいからであろう。そのうち特に低位の字（偏差値41.50以下）は次の10字である。

〔39〕陰，〔18〕営，〔5〕側，〔75〕老，〔74〕北，  
〔53〕復，〔26〕岸，〔14〕券，〔13〕判，〔7〕福，

このうちの6字は表 Ⅷ に示した正答率の高位字と一致し、3字はそれに準ずる。が、ただ「券」1字が低位字と重なる。類似の部首を有する「巻」「勝」「募」などが存するからであろう。

## 五 一般通用正解率の高位字・低位字に関して

本稿で取り上げた漢字100字の筆写楷書体での書写を漢字書き取り問題として採点する場合、どのような基準を設定するのが適当かを考えてみたい。

第一に、教科書体と同じ字形ならば「正答」とする。教科書体は1977年（昭和52年）に文部省告示として公表されている。その時に小学校で学んでいた人々は現在既に30歳を越えている。又その大部分は「当用漢字字体表」と一致し、他はこれにならって作成されている。

第二に、明朝体活字と筆写の楷書の形との間のいろいろの差異は、1981年（昭和56年）内閣告示の「常用漢字表」（付）「字体の解説」の第2において、習慣の相違に基ずく表現の差と見るべきだと述べている。が、本調査では教科書体との差異が存する前節の〔表Ⅷ〕の「改」「切」などは「許容」とし、正答に準ずるものとした。調査対象者の大学生がどの程度教科書体を守って書写しているかをも解明したいからである。

そして、両者を合せて一般社会で通用する漢字の筆写楷書体と考え、「正解」と称することにした。

〔表Ⅹ〕 調査漢字の一般通用正解率（高位順）

ii		i			
整理番号	考察視点	明朝体漢字	教科書体漢字	一般正解率（％）	偏差値
36	三	申	申	100	63.13
26	二	岸	岸	99	61.94
37	三	午	午	99	61.94
70	四	雑	雑	99	61.94
74	四	北	北	99	61.94
5	一	測	測	98	60.74
65	四	経	経	98	60.74
69	四	混	混	98	60.74
76	四	少	少	98	60.74
7	一	福	福	97	59.54
13	一	判	判	97	59.54
16	一	殺	殺	97	59.54
21	二	刊	刊	97	59.54
31	二	鉄	鉄	97	59.54
54	三	境	境	97	59.54
1	一	便	便	96	58.35
18	一	営	営	96	58.35
41	三	住	住	96	58.35
44	三	講	講	96	58.35
51	三	転	転	96	58.35
64	四	改	改	96	58.35
86	四	切	切	96	58.35
98	四	未	未	96	58.35
4	一	板	板	95	57.15
11	一	識	識	95	57.15

88	四	風	風	95	57.15
95	四	柱	柱	95	57.15
96	四	清	清	95	57.15
6	一	物	物	94	55.96
25	二	展	展	94	55.96
35	二	録	録	94	55.96
61	四	願	願	94	55.96
67	四	均	均	94	55.96
83	四	巻	巻	94	55.96
17	一	所	所	93	54.76
28	二	助	助	93	54.76
30	二	球	球	93	54.76
40	三	形	形	93	54.76
46	三	悲	悲	93	54.76
68	四	系	系	93	54.76
72	四	条	条	93	54.76
8	一	私	私	92	53.56
19	一	電	電	92	53.56
58	三	郡	郡	92	53.56
87	四	考	考	92	53.56
89	四	菜	菜	92	53.56
99	四	因	因	92	53.56
22	二	港	港	91	52.37
23	二	落	落	91	52.37
29	二	鼻	鼻	91	52.37

66	四	疑	疑	91	52.37
75	四	老	老	91	52.37
100	四	似	似	91	52.37
15	一	勝	勝	90	51.17
52	三	往	往	90	51.17
55	三	矢	矢	90	51.17
73	四	西	西	90	51.17
78	四	天	天	90	51.17
84	四	株	株	90	51.17
97	四	術	術	90	51.17
3	一	技	技	89	49.98
33	二	製	製	89	49.98
39	三	陰	陰	89	49.98
47	三	低	低	89	49.98
53	三	復	復	89	49.98
79	四	育	育	89	49.98
82	四	投	投	89	49.98
90	四	選	選	89	49.98
10	一	腸	腸	88	48.78
12	一	輪	輪	88	48.78
50	三	相	相	88	48.78
2	一	妹	妹	87	47.58
49	三	孝	孝	87	47.58
85	四	令	令	87	47.58
57	三	拾	拾	86	46.39
93	四	幸	幸	86	46.39

34	二	臍	臍	85	45.19
94	四	地	地	85	45.19
62	四	望	望	84	44.00
9	一	純	純	83	42.80
77	四	脈	脈	83	42.80
80	四	茶	茶	82	41.60
59	三	率	率	81	40.41
20	一	遠	遠	80	39.21
56	三	輸	輸	80	39.21
24	二	児	児	78	36.82
38	三	倉	倉	78	36.82
27	二	堂	堂	77	35.63
32	二	財	財	77	35.63
63	四	園	園	77	35.63
91	四	態	態	77	35.63
92	四	危	危	77	35.63
43	三	招	招	75	33.23
48	三	績	績	75	33.23
60	三	敵	敵	73	30.84
81	四	奏	奏	72	29.65
42	三	鉦	鉦	68	24.86
71	四	蚕	蚕	67	23.67
45	三	義	義	62	17.69
14	一	券	券	61	16.49
		合計		8902	5000
%		平均		89.02	50
整理番号	考察視点	明朝体漢字	教科書体漢字	一般正答率 正答+許容	偏差値

全漢字に対する一般通用正解率の平均は、89.02%で、全体的には高い。  
 高位字（96%以上）は23字である。そのうち特に高位の字（98%以上）は9字である。  
 これらの漢字に見られる性質を、次のa, b, cの3項に分類・整理してみた。

〔表Ⅺ〕 漢字の筆写楷書体の一般通用正解率の高位字の性質

	高位字A（98%以上）	高位字B（96%以上で98%未満）	合計
a 正答率が高位で、許容率が低位	岸，午，北，測，少，	福，判，刊，鉄，境，便， 営，住，	13字
b 正答率は高位でないが、許容率が高位	混，	改，切，	3字
c 正答率・許容率を合 せると高位	申，雑，経，	殺，講，転，未，	7字
合計	9字	14字	23字

教科書体を厳格に守って採点した場合、得点率がa群は高く、b群は低い。そして、許容範囲を考慮して採点した場合、b群・c群もa群と同様に得点率が高くなる。

低位字（79%未満）は15字である。そのうち特に低位の字（74%未満）は6字である。  
 これらの漢字に見られる性質をa, b, の2群に分類・整理すると、次のようになる。

〔表Ⅻ〕漢字の筆写楷書体の一般通用正解率の低位字の性質

	一般通用正解率が低位字 A (74%未満)	一般通用正解率が低位字 B (79%未満で74%以上)	合計
a 正答率が低位で、誤 答率が高位	券, 義, 鉦, 敵, 4 字	招, 危, 財, 堂, 倉, 兎, 6 字	10 字
b 正答率が低位で、誤 答率・許容率が高位	蚕, 奏, 2 字	園, 績, 態, 3 字	5 字
合計	6 字	9 字	15 字

備考 無答率は全体的に低い。比較的に高いのは「蚕」のみである。

教科書体を厳格に守って採点した場合、一般通用正解率が a 群・b 群は共に比較的に低くなる。が、許容範囲を考慮して採点した場合、b 群は比較的に高くなる。

これらが低位字になった理由も、〔表Ⅵ〕で示したのと同様に考えることができよう。たとえば「券」は旧字体「券」で、部首の一部が「募」「勝」と類似している。「危」も部首の一部は「皮」「港」と類似する。また「敵」は同音で同じ部首を有する「適」「滴」「摘」などが存する。このように、それらは必ずしも一元的に解釈できるわけではない。

## 六 誤答・無答率の高位字と低位字に関して

前節で述べた一般通用正解率に対して、誤答率と無答率とを合せて「誤答・無答率」と称することにする。

誤答・無答率は〔100 - 一般通用正解率〕の式で表すことができよう。そして、全漢字の平均は 10.98% になる。

高位字（22%以上）は15字である。そのうち特に高位の字（27%以上）は6字で、〔表Ⅹ〕の一般通用正解率（高位順）を低い方から並べた順序になる（同率の字は整理番号順）。

〔表Ⅻ〕調査漢字の誤答・無答率（高位順）

ii				i							
整理 番号	考察 視点	明朝体 漢字	教科書 体漢字	誤答率 (%)	偏差値	無答率 (%)	偏差値	誤答 + 無答 (%)	偏差値	誤答 + 無答 (%)	偏差値
14	一	券	券	39	85.11	0	47.46	39	83.51		
45	三	義	義	37	82.62	1	56.87	38	82.31		
71	四	蚕	蚕	23	65.25	10	141.6	33	76.33		
42	三	鉦	鉦	32	76.42	0	47.46	32	75.14		
81	四	奏	奏	27	70.22	1	56.87	28	70.35		
60	三	敵	敵	25	67.73	2	66.29	27	69.16		
43	三	招	招	25	67.73	0	47.46	25	66.77		
48	三	績	績	25	67.73	0	47.46	25	66.77		
27	二	堂	堂	23	65.25	0	47.46	23	64.37		
32	二	財	財	22	64.01	1	56.87	23	64.37		
63	四	園	園	23	65.25	0	47.46	23	64.37		
91	四	態	態	23	65.25	0	47.46	23	64.37		
92	四	危	危	23	65.25	0	47.46	23	64.37		
24	二	兎	兎	22	64.01	0	47.46	22	63.18		
38	三	倉	倉	21	62.77	1	56.87	22	63.18		

20	一	遠	遠	20	61.53	0	47.46	20	60.79
56	三	輪	輪	20	61.53	0	47.46	20	60.79
59	三	率	率	19	60.29	0	47.46	19	59.59
80	四	茶	茶	18	59.05	0	47.46	18	58.4
9	一	純	純	16	56.56	1	56.87	17	57.2
77	四	脈	脈	17	57.81	0	47.46	17	57.2
62	四	望	望	16	56.56	0	47.46	16	56
34	二	臍	臍	14	54.08	1	56.87	15	54.81
94	四	地	地	15	55.32	0	47.46	15	54.81
57	三	拾	拾	13	52.84	1	56.87	14	53.61
93	四	幸	幸	14	54.08	0	47.46	14	53.61
2	一	妹	妹	13	52.84	0	47.46	13	52.42
49	三	孝	孝	13	52.84	0	47.46	13	52.42
85	四	令	令	13	52.84	0	47.46	13	52.42
10	一	腸	腸	12	51.6	0	47.46	12	51.22
12	一	輪	輪	11	50.36	1	56.87	12	51.22
50	三	相	相	12	51.6	0	47.46	12	51.22
3	一	技	技	11	50.36	0	47.46	11	50.02
33	二	製	製	11	50.36	0	47.46	11	50.02
39	三	陰	陰	11	50.36	0	47.46	11	50.02
47	三	低	低	11	50.36	0	47.46	11	50.02
53	三	復	復	11	50.36	0	47.46	11	50.02
79	四	育	育	11	50.36	0	47.46	11	50.02
82	四	投	投	11	50.36	0	47.46	11	50.02
90	四	選	選	11	50.36	0	47.46	11	50.02
15	一	勝	勝	10	49.12	0	47.46	10	48.83
52	三	往	往	9	47.88	1	56.87	10	48.83
55	三	矢	矢	10	49.12	0	47.46	10	48.83
73	四	西	西	10	49.12	0	47.46	10	48.83
78	四	天	天	10	49.12	0	47.46	10	48.83
84	四	株	株	9	47.88	1	56.87	10	48.83
97	四	術	術	10	49.12	0	47.46	10	48.83
22	二	港	港	9	47.88	0	47.46	9	47.63
23	二	落	落	8	46.64	1	56.87	9	47.63
29	二	鼻	鼻	9	47.88	0	47.46	9	47.63
66	四	疑	疑	9	47.88	0	47.46	9	47.63
75	四	老	老	9	47.88	0	47.46	9	47.63
100	四	似	似	9	47.88	0	47.46	9	47.63
8	一	私	私	8	46.64	0	47.46	8	46.44
19	一	電	電	8	46.64	0	47.46	8	46.44
58	三	郡	郡	8	46.64	0	47.46	8	46.44
87	四	考	考	8	46.64	0	47.46	8	46.44
89	四	菜	菜	8	46.64	0	47.46	8	46.44
99	四	因	因	8	46.64	0	47.46	8	46.44
17	一	所	所	7	45.4	0	47.46	7	45.24
28	二	助	助	6	44.16	1	56.87	7	45.24
30	二	球	球	7	45.4	0	47.46	7	45.24
40	三	形	形	7	45.4	0	47.46	7	45.24
46	三	悲	悲	7	45.4	0	47.46	7	45.24
68	四	系	系	7	45.4	0	47.46	7	45.24
72	四	条	条	7	45.4	0	47.46	7	45.24
6	一	物	物	6	44.16	0	47.46	6	44.04

25	二	展	展	6	44.16	0	47.46	6	44.04
35	二	録	録	6	44.16	0	47.46	6	44.04
61	四	願	願	6	44.16	0	47.46	6	44.04
67	四	均	均	6	44.16	0	47.46	6	44.04
83	四	巻	巻	6	44.16	0	47.46	6	44.04
4	一	板	板	5	42.91	0	47.46	5	42.85
11	一	識	識	5	42.91	0	47.46	5	42.85
88	四	風	風	5	42.91	0	47.46	5	42.85
95	四	柱	柱	5	42.91	0	47.46	5	42.85
96	四	清	清	5	42.91	0	47.46	5	42.85
1	一	便	便	3	40.43	1	56.87	4	41.65
18	一	営	営	4	41.67	0	47.46	4	41.65
41	三	住	住	4	41.67	0	47.46	4	41.65
44	三	講	講	4	41.67	0	47.46	4	41.65
51	三	転	転	4	41.67	0	47.46	4	41.65
64	四	改	改	3	40.43	1	56.87	4	41.65
86	四	切	切	4	41.67	0	47.46	4	41.65
98	四	未	未	4	41.67	0	47.46	4	41.65
7	一	福	福	3	40.43	0	47.46	3	40.46
13	一	判	判	3	40.43	0	47.46	3	40.46
16	一	殺	殺	3	40.43	0	47.46	3	40.46
21	二	刊	刊	3	40.43	0	47.46	3	40.46
31	二	鉄	鉄	3	40.43	0	47.46	3	40.46
54	三	境	境	3	40.43	0	47.46	3	40.46
5	一	測	測	2	39.19	0	47.46	2	39.26
65	四	経	経	1	37.95	1	56.87	2	39.26
69	四	混	混	2	39.19	0	47.46	2	39.26
76	四	少	少	2	39.19	0	47.46	2	39.26
26	二	岸	岸	1	37.95	0	47.46	1	38.06
37	三	午	午	1	37.95	0	47.46	1	38.06
70	四	雑	雑	1	37.95	0	47.46	1	38.06
74	四	北	北	1	37.95	0	47.46	1	38.06
36	三	申	申	0	36.71	0	47.46	0	36.87
合計				1071	5000	27	5000	1098	5000
平均				10.71	50	0.27	50	10.98	50
整理 番号	考察 視点	明朝体 漢字	教科書 体漢字	誤答率 (%)	偏差値	無答率 (%)	偏差値	誤答 + 無答 (%)	偏差値

無答率の高位字は「蚕」(10%)のみである。この字は誤答率も高位字(23%)である。多くの被調査者が字形を思い浮かべられないか、正しく認識できていない。

誤答率の高位字としては、これ以外に14字がある。誤答の原因は〔表ⅩⅦ〕の一般通用正解率の低位字と同じように、多くは一元的解釈で説明できない。

## 七 む す び

1940年代に教育を受けた私が考えていたことと比較して、第一に現在の大学生は「当用漢字字体表」(1949)以降に改変された字体を大変よく学習して身につけている。そして、「福」「営」「転」に対応する旧教科書体の「福」「營」「轉」の部首などの影響をほとんど受けていない。両者の混乱する現象がほとんど見られないのは、旧漢字体を特に取り上げて学習する機会が少なかったこ

とも原因になっているであろう。

第二に、学校教育で教科書体（1977）が規範として強化されているが、明朝体との間に微妙な相違のある漢字については、混乱が見られる。たとえば「改」「切」などである。小学校の教科書ではその後に学習指導要領で示された教科書体活字を用い、中学校以降の教科書および新聞など一般社会では明朝体活字を用いているからである。ただし、多用される漢字の中には、対応する語や類似の部分を持つ漢字が存する「北」「展」など、筆写で混乱を起こすことが少ないものもある。

第三に、最初に調査漢字100字を考察視点別に4分類した。分析してみると、正答率の高位字は一類に多く、低位字は四類に多い。が、予想しないことも生じて、整然とした配置には収束していない。

（イ）一類は正答率の高位字が多い。が、「遠」「券」のような低位字も存する。前者は文字としての構造が複雑であり、後者はその上に他の漢字に類似の部首も使用されている。

（ロ）二類は多用される漢字が多い。複雑な構造の「製」「臓」、部首に類似の部分を含む「港」「録」もあるが、低位字はない。

（ハ）三類は低位字として使用の少ない「鉾」、その上に類似の字形の存する「往」、同音で意味が類似の漢字の存する「義」などが見られる。

（ニ）四類は低位字が多い。その原因として〔表Ⅵ〕に上げた（A）構造が複雑、（B）明朝体との字形の相違、（C）部首に類似の部分を含む漢字の存在、（D）旧字体との微妙な相違、などが考えられる。

このように低位字を中心にして全体を観察すると、その理由を一元的に説明することができないのである。

第四に、許容率の高位字を主にして検討した。その結果、規範としての教科書体活字の字形そのものに問題の存することを発見した。〔表Ⅷ〕にあげたように、（a）「改」「切」は教科書体で、（b）「昆」「似」「遠」は明朝体で、字形の体系性を欠くのである。前者の「改」第3画などは教科書体でとめる、明朝体や他の漢字の部首でははねる。が、「己」「港」は共にはねる。後者の「昆」第6画や「展」第8画のレは共に1画であるが、明朝体では2画のように見える。視覚的に類似する「以」「似」のレは2画である。また「遠」第10画はとめるが、「園」第12画はJISなどでとめ常用漢字表ではらう。このことは教科書体活字でも同じである。

以上、岐阜聖徳学園大学教育学部の学生に協力していただき、漢字の書記の実態調査を行い、分析・考察を試みた。この結果は、大学生のみならず中学生・高校生の漢字教育にも役立てたい。そのためにも、調査漢字を増加すること、被調査者を中学生・高校生にも拡大することを計画している。なお調査資料の偏差値の計算には、福田茂隆博士（数学）のご協力をたまわった。厚く御礼申しあげる。

## 注

- （1）「当用漢字表」（1946）内閣告示，1850字。続いて、「当用漢字字体表」（1949）内閣告示によって1850字の標準字体が示された。
- （2）「教科書体」（1977）文部省告示，「小学校学習指導要領」の「学年別漢字配当表」で教科書体活字996字を示す。その後（1989）に1006字（20字追加，10字削除）に改められた。



- (3) 「常用漢字表」(1981)内閣告示, 1945字(当用漢字表に95字を追加)。現代の国語を書き表す漢字使用の目安である。
- (4) 「JIS 漢字」日本における情報交換・情報処理用の標準規格として定めた漢字。常用漢字を含む, 比較的使用頻度の高い2965字を第1水準とし, 以下第2水準・第3水準, そして現在は第4水準までの漢字11223字が制定されている。
- (5) 「簡易慣用字体」(2000)国語審議会答申。常用漢字表にない漢字(表外漢字)のうち, 特に使用頻度の高い略字(鷗・麴など)22字の使用を認める。
- (6) 「印刷標準字体」(2000)国語審議会答申。常用漢字表にない漢字(表外漢字)のうち1022字の表記について, 伝統的な字体を基本にして制定した。
- (7) 「人名用漢字別表」戸籍法施行規則による人名用の文字のうち, 常用漢字表の漢字と平仮名・片仮名を除く漢字の表。常用漢字表の告示(1981)の時点では166字, その後追加されて現在は285字。

## 付 記

本稿は, 東海解釈学会平成15年度大会(於 名古屋短歌会館, 平成15年11月3日)における口頭発表を基にして加筆改稿したものである。